

令和8年度 第2回 横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和8年8月18日（火） 13時00分～15時39分

2 場 所 横浜市役所18階 なみき18会議室

3 出席者 ハッ橋 治郎 委員長、富岡 幸一郎 委員、中垣 理子 委員、中村 美帆 委員、古本 悦子 委員

4 欠席者 無し

5 傍聴者 1名

6 議事内容

議題	1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開 3 議題1：令和7年度業務評価 4 議題2：面接審査 (1) 提案者プレゼンテーション (2) 提案者に対するヒアリング 5 議題3：本審査 (1) 応募団体欠格事項等の確認について (2) 審議及び採点
議事・委員意見等	1 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「議題1：令和7年度業務評価」及び「議題2：面接審査」の審議については公開、「議題3：本審査」の審議については非公開とした。 3 議題1：令和7年度業務評価 (1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和7年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から事業報告書等の内容について確認及び質疑を行った後、指定管理者に対する評価内容の説明を行った。 《主な質疑応答》（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者、「➡」は市） ・施設の老朽化に伴う修繕を評価する一方で、今後の大規模修繕の方向性を

	どのように考えているか。 ⇒施設の老朽化への対応については、横浜市と協議しながら必要な修繕を行っており、今後も状況を踏まえて対応していく。 ➡施設の老朽化は認識しており、優先順位を付けて修繕を実施している。現時点で大規模修繕の計画はないが、引き続き指定管理者と連携しながら対応していく。 ・大猫展において想定以上の売上げにつながった商品は何だったか。 ⇒猫をテーマとした紅茶やトートバッグ、ガチャガチャが好評であった。特にガチャガチャは想定を超える利用があり、一時的に品切れとなるほどであった。 ・修繕費が2年連続で予算額を上回っているが、現在の予算設定をどのように考えているか。 ⇒収入の状況を踏まえながら、修繕や環境整備に必要な経費を充当して対応している。 ・備品購入費から修繕費へ振り替えている状況について、予算執行の考え方はどのようなものか。 ⇒優先順位を考える中で、新たな備品購入よりも修繕を優先し、備品購入費を修繕費へ振り替えて対応している。 ・その他保全費にはどのような経費が含まれているのか。 ⇒樹木管理など施設環境の維持に関する委託費や館内装飾に係る経費などが含まれている。 ・ブルームバーグ・コネクツの今後の活用や情報発信についてどのように考えているか。 ⇒現在は館内案内として活用しているが、今後は展示にも活用し、鑑賞支援の充実につなげていきたい。 ・『三つ星の頃』80冊完売に至った経緯や販売見込みをどのように立てていたか。 ⇒当初30冊を仕入れたが、想定以上の売れ行きだったため追加で50冊を仕入れた。『三つ星の頃』は展示内容とも関連の深い書籍であり、約50年ぶりの再刊であったことから好評を博し、会期終了前に完売した。 ・ショップ商品のラインアップ見直しをどのようなプロセスで進めているか。 ⇒展示内容や事業内容に応じて販売商品を検討しており、職員間で協議しながら商品構成や販売数量を決定している。 ・利用者の意見を商品開発や仕入れにどのように反映しているか。
--	--

⇒窓口スタッフがお客様から寄せられる要望や反応を日常的に共有し、その意見を商品企画や仕入れの判断に活用している。

- ・施設修繕と所蔵資料の修復が同じ費目に整理されているが、内容が異なるため区分して示した方が分かりやすいのではないか。

⇒財団内部では施設修繕と資料修復を区分して管理しているが、市の様式へ集約する過程で同一費目として整理している。今後、施設の特性に応じた項目設定が可能か検討したい。

- ・300万円の寄附金について、どのような活用を予定しているか。

⇒大佛次郎作品をより手に取りやすい環境づくりに活用したいと考えており、第3期指定期間における活用方法を検討している。

- ・サロン展示の蔵書コレクションについて、欠本の状況をどう捉えているか。また、今後どのように活用していく考えか。

⇒現在展示している蔵書は個人コレクターの収集によるもので、全著作が揃っているわけではない。コレクションとして保存しつつ、今後は閲覧環境の充実を図りたいと考えている。

- ・寄附金を活用した絶版本や未所蔵資料への対応をどのように考えているか。

⇒資料購入に限らず、絶版本の復刊支援なども含め、大佛次郎作品がより手に取りやすくなる方策を検討している。

《評価内容の説明》

【評価できる点】

- ・ビブリオバトルやねこ展などの継続的な取組に加え、観望会など新たな事業にも取り組みながら、様々な工夫や多様なアプローチによる事業展開を進めていることは高く評価できる。

- ・図書館や学校、地域団体等との連携を継続しながら、新たな利用者層の獲得や文学・文化活動への関心の拡大につなげていることは評価に値する。

- ・デジタルアーカイブの整備や調査・研究活動を着実に進め、その成果を展示や情報発信に結び付けている点は評価したい。

- ・ショップ収入や商用撮影利用料の増加などにより自主財源の確保に努めるとともに、前年度の赤字から黒字へ改善し、安定した施設運営を実現していることは高く評価できる。

- ・ブルームバーグ・コネクトの導入や郵便局との連携など、先進的な取組や外部機関との協働により情報発信の幅を広げていることを評価したい。

- ・老朽化が進む施設においても適切な維持管理を行いながら、大きな事故なく運営していることは大きな実績である。

【より一層の取組を期待する点】

- ・大佛次郎が持つ幅広い業績や歴史的・文化的意義について、美術館や歴史博物館等との連携も視野に入れながら、さらなる発信が進むことを期待する。
- ・野尻抱影や荒井寛方など、大佛次郎周辺の人物や資料に関する研究成果についても、より積極的な発信が図られることを望む。
- ・猫関連事業や猫グッズを契機として来館した利用者の関心を、大佛次郎や記念館への理解につなげる工夫が進むことを期待する。
- ・展示や事業の魅力及び大佛次郎との関連性がより分かりやすく伝わるよう、広報戦略や情報発信の強化を図り、独自性のある取組が広く認知されることで、認知度向上や利用促進につながることを期待する。
- ・寄附金の活用も含め、大佛次郎作品に親しみやすい閲覧環境や書架整備など、利用環境の充実が図られることを期待する。
- ・調査研究をさらに深めるとともに、新たな切り口による事業展開を継続し、幅広い世代の関心を引く取組の充実を期待する。
- ・猫の日の混雑対策や施設の長寿命化を含め、利用者サービスの向上と計画的な施設保全が継続されることを望む。

5 議題2：面接審査

提案者による提案書のプレゼンテーションの後、委員による質疑を行った。

＜主な質疑応答＞

(以下「・」：委員、「→」：提案者)

- ・新規事業である「研究室のお仕事体験プログラム」をどのような形で実施することを考えているか。
→夏休み期間に3日程度の集中講座から開始し、実施結果を踏まえながら内容や期間を検討していく考えである。
- ・学芸員実習の受入れの可能性をどのように考えているか。
→博物館法上の登録博物館ではないため学芸員実習の単位認定対象施設ではなく、問合せはあるものの現在は受入れに至っていない。
- ・GREEN×EXPO 2027に関連した取組をどのように展開する予定か。
→大佛次郎の花に関するエッセーやナショナルトラストの取組を紹介しながら、地球環境の保全をテーマとした展示を計画している。

	・大佛次郎生誕 130 年及び開館 50 周年に向けた展示計画はどのように考えているか。 →市民参加型展示などを視野に入れながら、今後具体的な内容を検討していく。 ・提案内容が横浜市中期計画とどのように連動しているか。 →横浜未来の文化ビジョンを踏まえ、その考え方を提案内容全体に反映している。 ・研究員以外を含めた職員配置や人材育成をどのように考えているか。 →人事異動等を見据えながら、既存職員が支え合い、組織として安定した運営ができる体制づくりに取り組んでいく。 ・書簡調査を進めるに当たり、著作権や個人情報保護への対応をどのように考えているか。 →書簡本文の公開ではなく、差出人や宛名の情報を整理・リスト化する予定であり、公開に当たっては著作権や個人情報に十分配慮する。 ・これまで来館したことのない層に対して、どのようなアプローチを考えているか。 →多様なテーマ展示や SNS 発信を通じて、これまで接点のなかった層にも興味を持ってもらう機会を広げていく。 ・ハロウィンイベント来訪者を来館につなげる工夫をどのように行うのか。 →仮装来館者向けの割引や館内装飾などを行い、記念館へ足を運ぶきっかけづくりに取り組んでいる。 ・市民利用によるサロン活用を有料化する場合の考え方をどのように整理しているか。 →当面は試行的に実施し、有料化する場合は利用者の理解を得ながら進めたいと考えている。 ・管理費や事務費が 5 年間同額となっている理由は何か。 →物価スライド制度を前提とし、現時点では大きな変動要因を見込まずに作成している。 ・貸室利用料へのキャッシュレス決済導入をどのように考えているか。 →現時点では導入していないが、財団全体の課題として検討が進められている。 ・専門性を担保する人材配置において、学芸員資格等をどのように位置付けているか。 →学芸員資格の有無よりも、大佛次郎研究や文学研究の実績・経験を重視している。 ・ホームページ解析や SNS 分析などは実施しているか。 →専門的な分析は実施していないが、利用者から寄せられる意見を日常的に共有し、運営改善に活用している。 ・開館時及び閉館時の安全確保をどのように行っているか。
--	---

	→緊急時はマニュアルに基づき職員が対応し、閉館時は機械警備により施設を管理している。 ・特任研究員を配置する目的は何か。 →研究員への助言や企画への提言を行うアドバイザーとして位置付けている。 ・ビブリオバトル事業を今後どのように発展させていく考えか。 →来館者や学校とのつながりを地道に広げながら、継続的な事業として取り組んでいく。 ・食文化をテーマとした展示において、横浜の歴史や酒文化との連携をどのように考えているか。 →大佛次郎と食や酒にまつわるエピソードも豊富であり、ホテルニューグランドや地域資源との連携を含めて展開を検討している。 ・貸室利用促進に向けて、設備改善などをどのように考えているか。 →大規模な設備更新は予定していないが、利用者の声を踏まえながら利用しやすい環境づくりを進めていく。 6 議題3：本審査 (1) 提案者について、提案者の欠格項目のうち、市税等の滞納がないこと及び暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないことが確認された旨を事務局から報告。 (2) 提案書類及び面接審査の内容を踏まえ、委員による意見交換、各評価項目の採点を行った。 【審査結果】 提案者：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 総得点987点／1,150点（委員5名×持ち点230点） なお選定要項に、指定候補者となるためには、選定評価委員会の定める最低基準点（加減点項目を除く評価基準項目の合計200点満点の6割以上）を満たすことが必要である旨の記載があり、5名全ての委員の採点がこの基準を満たしていることを併せて確認した。
審議結果	「議題1：令和7年度業務評価」については、本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。 「議題3：本審査」については、提案者：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団を指定候補者として横浜市長に報告する。 なお、審査結果及び講評は、本日の意見を集約し、委員長確認のうえ報告書にまとめる。